

イベントプログラム

Argus Clean Ammonia Asia Conference

2026年6月2日～4日・東京(日本)



Argus Clean Ammonia Asia Conference**2026年6月2日～4日・東京（日本）****6月2日（火）—ウェルカムドリンクレセプション**

09:00 受付開始

17:30～19:00 ウェルカムドリンク＆ネットワーキング

6月3日（水）—カンファレンス 1日目

08:30 受付開始

09:00～09:05 議長による開会挨拶

09:05～09:50 アンモニアのグローバル市場見通し：現在（グレー）と将来（クリーン）

- ・ 欧州・中東のアンモニア生産の市場見通し（2030年／2035年／2040年）
- ・ 進化する規制環境：EU CBAM や RFNBO 規則がアジア-EU 間の貿易フロー、価格、認証要件に与える影響
- ・ 貿易ルートと価格の不確実性：CBAM や地政学的リスクは、世界のアンモニア市場フローをどう変えるのか
- ・ アジアにおける政策・投資姿勢の変化：政府、企業、金融機関がプロジェクト停滞、IMO ネットゼロ枠組みの延期、韓国 CHPS 入札の中止にどう対応しているか

09:50～10:35 アンモニア vs 代替燃料：難削減分野における将来燃料

- ・ 水素・アンモニアと化石燃料の価格差：各産業での持続可能な燃料のコスト低減方法
- ・ 将来のエネルギー믹스はどうなる？再生可能エネルギー、蓄電池、ガスの役割を含めた視点
- ・ エネルギー安全保障と脱炭素の両立：信頼性・経済性を損なわずに持続可能性を実現するには

10:35～11:20 CCS（二酸化炭素回収・貯留）：脱炭素加速とアジアにおけるアンモニアの役割

- ・ 脱炭素における CCS の役割：e-fuel の導入、産業転換、アンモニアなど低炭素燃料の実現
- ・ アジア地域における CCS 戦略：国境を越えた貯蔵、サービスモデル、貯蔵ハブの開発とアンモニア市場への影響
- ・ 投資と協業の促進：政府間連携、CCS インフラの拡張、脱炭素電および燃料としてのアンモニアとの統合

11:20～11:40 休憩

政策・規制・市場シグナル：日本と韓国

11:40～12:10 日本はいかにしてクリーンアンモニア導入でのリーダーシップを維持しているのか

- ・新政権下で、インフレ対応や経済安全保障が政策運営の優先事項となる中、水素・アンモニアを柱とする GX（グリーントランスフォーメーション）政策の位置づけはどのように変化しているのか。GXの推進スピードや政策の確実性に与える影響を整理する。
- ・CfD（差額決済型支援）制度のもと、9月に国内2案件、12月に海外プロジェクトが発表。今後、3月末までに追加の海外案件選定が見込まれる中、これらの結果は日本のクリーンアンモニア戦略をどのように反映しているのか。事業開発、投資判断、国際連携の観点から、その評価と業界への示唆を議論する。
- ・CfDに続く支援策として導入が想定されている、LDPA（長期脱炭素電力オーバークション）によるアンモニアの価格差補填メカニズムについて、その制度設計の方向性と実効性を検証する。長期オフティクの確保や事業の銀行性（バンカビリティ）向上にどのような役割を果たし得るのかを考察する。

12:10～12:25 韓国の政策変更：需要と市場優先事項の再構築

グローバルおよび地域規制

12:25～13:00 IMO ネットゼロ枠組みの延期の影響評価：2026年11月の採択は海運業界の転換点となるか

- ・IMO ネットゼロ枠組みの延期は、海運業界にどのような影響を与えていているのか。また、2026年11月に採択された場合、市場にとって転換点となり得るのかを検証する。
- ・枠組み延期によって生まれた時間は、技術成熟や業界ガイドラインの明確化にどのような意味を持つのか。
- ・EU ETS、UK ETS、FuelEU Maritimeなどの既存政策が、日本の商社・海運事業者にどのような影響を与えていているのかを整理する。

13:00～13:20 ケーススタディ：アンモニア発電・バンカリングにおけるシンガポールのリーダーシップ

- ・Keppel／住友商事／Advario コンソーシアムが、シンガポールのアンモニア火力発電およびバンカリング事業における FEED 請負業者として果たす役割を検証する。
- ・シンガポールが、アジアにおけるアンモニア事業モデルやインフラ整備をどのように先導しているのかを紐解く。
- ・シンガポールを起点としたアジア全体への示唆を整理する。

13:20～14:20 ランチ

クリーンアンモニアの世界的な供給動向

中国とインドの動向：中国の生産能力、インドのグリーン開発とオーバークション—中東とのコスト・競争力比較

14:20～14:50 中国：最大規模のグリーンアンモニア供給源となるか

- ・ 生産能力は大きい一方、稼働率は20~30%にとどまるとされる。需要は供給に追いついているのかを検証する。
- ・ 中国はどのように規制導入を進めているのか。また、日本のエネルギー転換の文脈で、どのような役割を果たし得るのかを考える。
- ・ 競争力のあるアンモニア供給に向けた中国の戦略を整理する。

14:50~15:20 インド：最も動きが活発な国か？理想論か、実現段階か

- ・ 発表案件の約90%がFID未達：どこまで実現するのか
- ・ 政策支援・生産補助オーバークションとオフティク（国内／輸出）
- ・ 中東との競争力比較

15:20~15:35 インドネシア：クリーンアンモニア市場の重要プレーヤー

- ・ アジア最大級の従来型アンモニア生産国としての役割と新たな展開

15:35~15:50 休憩

15:50~16:30 中東・米国・豪州：アジア向け輸出プロジェクトの最新動向と市場見通し

- ・ プロジェクト開発は現在どの段階にあるのか。各地域がクリーンアンモニアの普及をどのように進めようとしているのか、また肥料産業の脱炭素化がその戦略にどのように位置づけられているのかを確認する。
- ・ これらの地域は、米国からの供給と比較した場合、どのような特徴や競争力を持っているのかを整理する。
- ・ ブルーアンモニアについては、これまでに停止・延期されたプロジェクトの状況を振り返り、それが市場立ち上げにどのような影響を及ぼし得るのかを検討する。

16:30~17:10 ファイナンス、リスク、コスト競争力：事業化可能なアンモニアプロジェクトに向けて

- ・ 金融機関や投資家は、プロジェクトの銀行性（バンカビリティ）を評価する上で何を重視しているのか。厳しい市場環境下で、確実なオフティクや政策の予見性が果たす役割を整理する。
- ・ 最終投資判断（FID）に到達するために、プロジェクトの特性に応じてどのように資金調達手法を組み合わせるべきなのか、ファイナンスの組成を概観する。
- ・ 最近の長期投資事例をもとに、電力・海運分野において銀行性のあるオフティクを確保することの重要性を確認する。

17:10~17:15 議長による閉会挨拶

17:15~18:30 ネットワーキングドリンクレセプション

6月4日（木）－カンファレンス2日目

08:00~09:00 朝の受付＆ネットワーキング

08:30~09:15 ラウンドテーブル：アグリゲーター戦略－分野横断で需要を束ね、規模を実現するために

09:25～09:30 議長による開会挨拶

09:30～10:20 技術とインフラ：アジアにおけるクリーンアンモニア導入に向けて

- ・ アジアにおいてクリーンアンモニア導入を進めるために、企業はどのようにコスト削減や新技術の開発に取り組んでいるのかを探る。
- ・ 企業はアジア各国の政策をどのように評価しており、それがクリーンアンモニア・プロジェクトの経済性にとってなぜ重要なのかを整理する。
- ・ プロジェクトの準備状況という観点から、クラッキング、貯蔵、安全基準に関する最新動向を共有する。

ミニプレゼンテーション：

1. アジアにおける輸入ハブ開発の進展
2. アンモニアクラッキング技術の現状
3. アンモニア貯蔵・輸送能力の整備状況
4. 社会的受容性：実績ある安全アプローチを通じて、許認可取得をいかに加速するか
- 日本において、日本海事協会 (ClassNK) がアンモニアに関する安全基準をどのように整備してきたのか

10:20～11:05 港湾・バンカリング・造船：アンモニア海運のためのインフラ構築

- ・ シンガポール、釜山、ヒューストンなど主要港における代替燃料供給の実務的課題、アンモニアバンカリングハブの世界的な整備現状を整理する。
- ・ 造船需要の拡大が、アンモニア燃料船の導入や将来の船舶設計にどのような影響を与えているのかを探る。
- ・ アンモニアバンカリングのスケールアップに向けたインフラ課題と協業の可能性を議論する。

11:05～11:50 セクター主導の需要創出とオフティク：本格的なスケール拡大はどの程度のスピードで進むのか

- ・ 海運以外も含め、アンモニアの主要オフティカーとなり得る主体は誰か。チャーターラー、船舶利用者、アンモニアキャリアの役割を整理する。
- ・ 肥料企業、電力事業者、水素を必要とする他の難削減分野からの需要は、どのように展開していくのかを探る。
- ・ 潜在的な購入者は、分野を超えてどのように連携し、需要を集約することができるのか。成功事例をもとに検討する。

11:50～12:35 クリーンアンモニアの需要と調達：購入者戦略、契約モデル、認証の最新動向

- ・ 潜在的な購入者は、コスト、価格の安定性、供給の確実性をどのようにバランスさせながら調達判断を行っているのかを整理する。
- ・ 現在使用されている契約モデルと、取引拡大に向けて残されている課題を確認する。
- ・ 認証制度の最新動向と、信頼醸成および市場流動性に果たす役割を検討する。

12:35～12:40 議長による閉会挨拶